

# 目をこらして (22)



朝、保育室のドアを開けると、ほのかな香りがする。

見回すと、棚の上のヒヤシンスが目に入った。

秋に子どもたちと栽培を始めた。

冬になり根が伸びて、葉の根本にはずいぶん前から硬い

緑のつぼみが見えてきていた。

でも、そのつぼみは、なかなか開かない。

硬いつぼみは、とても頑固そうに見えた。

いつ咲くか、いつ咲くかと毎日楽しみにしていた。

それが、今朝、花開いた。

子どもたちが登園する前の静かな保育室で、私は、じつ

とヒヤシンスの花を見つめていた。

つぼみの上の方の何輪だけが花を開いていた。薄いピ

ンク色の小さな小さな花だった。

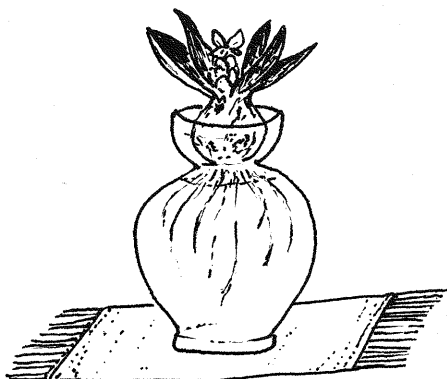
昨日までは、緑のつぼみだったのに、今は薄いきれいな

ピンク色に染まって、「今咲いたよ」と言いたげに、花は

初々しくともうれしそうに見えた。

その花を眺めながら、突然、ピンクの色は一体どこから

来たのだらうという思いに包まれた。





# 耳をすまして

昨日までは緑に見えたその内側で、柔らかなピンク色が静かにしかし確実に準備されている。

そして、今、という時を選んで、こうして、花開く。

子どもたちがまだやってこない静かな保育室で、私は思っていた。子どもたちもヒヤシンスの花のようだ。そして子どもたちの中に蓄えられている、それぞれの柔らかな色のことを考えた。

子どもたちも、自分の時を選び、ゆっくりと自分色の花を咲かせている。それを私は、待つことができていたかどうか、見ることができていたのだろうか。

\*

ダダダッと元気な足音がして子どもたちが、次々に駆け込んできた。

「おはよう!」「何見ているの?」

「あ、咲いたんだ」「いい匂いだねえ」「え、かがせてよ」ヒヤシンスの回りは、急ににぎやかになった。

今日の一日が始まる。

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ふどう幼稚園)

